

3 医療施設における院内感染対策

シスメックス株式会社 北関東支店

原 敬志

「ついに抗生物質が効かない時代が到来した」

昨年4月、WHOより全世界に警鐘を鳴らすレポートが発表された。「抗生物質が効かない」とは、この85年間の抗生物質の乱用の結果、世界各地に薬剤耐性菌が拡大しているということである。昨年、日本国内でもCREが5類全数把握疾患に追加されたことは記憶に新しいが、最後の切り札とも言われるカルバペネム系抗生物質に対する耐性を獲得した耐性菌の存在は、現実として受け止めねばならないと同時に、これ以上の拡大を防ぐためにも各施設における耐性化に歯止めをかける意識、感染対策が非常に重要である。

また、近年CREのみならず様々な薬剤耐性菌がアウトブレイクを起こしては話題となり、昨年のエボラ出血熱、今年に入ってからMERSといった、これまでおよそ日本には関係のないと思われていた感染症の国内伝播も懸念されている。更に近年の医療ツーリズムの世界的な拡大により、耐性菌の伝播スピードは格段に速くなり、一旦新たな耐性菌が発生すると瞬く間に世界的規模で蔓延する事態となることもあり、海外の感染症情報にもアンテナを張っておく必要性が高まっている。患者、医療従事者を守るために、医療機関における院内感染対策の整備が、これまで以上に必要かつ重要な事象となってきている。

昨今、院内感染対策において威力を発揮する感染制御システムを導入する施設も増加傾向にある。また院内感染対策を実施する上での要とも言える細菌検査室においては、新たな質量分析の技術を用いた同定検査の登場により、これまで以上に迅速な同定検査が可能となった。これらを活用することで、より効率的な院内感染対策の実施が可能であると考えている。

今回は世界、日本国内における耐性菌、感染症の最新情報を始め、細菌検査における新たな技術の紹介・活用法、感染制御システムを活用した院内感染対策について紹介する。